

# 第5回定期総会報告

(2009年10月31日14時30分～18時)

会員総数：98名

出席者：13名

委任状提出者：25名

## ○ 規約第13条に基づき総会成立

### 1. 開会及び会長挨拶

会員皆様のご協力により、AYFの活動も順調にすすんでいること嬉しく思います。今日は会員98名、出席者13名、委任状提出25名ということで、総会が成立しました。

昨年度の総会で出た様々な提案、たとえば、日本語の学習や情操教育への導入、子供たちの遺跡への関心を高めることなどが、この一年間で少しずつ実現したり解決されたりしていることは、とても嬉しいことです。

今年度は、第一期の最終年度にあたる重要なポイントの年となります。この会の立ち上げ時に「期限を区切って次期をどうするか考えよう」ということで、その区切った期間を5年としました。次期の総会は6年目に入ります。この先、この会をどうしていくか、この総会で、皆様から意見を伺い、じっくり話し合いながら考えていきたいと思えます。

### 2. 2008年度活動報告及び会計報告 (別紙参照) (補足)

今年は、新聞や雑誌などにAYFの記事が掲載された。

北日本新聞、『富山と東京』2月号&3月号、富山県学生寮寮生文集(ツアー参加記・コウベツトさんを迎えて)、『実業の富山』7月号など

### 3. 現地の様子

#### ① 遺跡修復事業について

- ・バイヨン南経蔵の修復事業(2006年に開始)は、すでに解体作業や部材修理、仮組み作業の工程を終え、現在は基壇の再構築工事を行っている。2011年7月までの残り1年半の期間内で全工事を完了するよう作業が進められている。このバイヨン南経蔵の修復は現地エキスパートの人たちが主となっている事業である。
- ・バイヨン中央塔の構造補強の研究、内回廊の浮彫りの保存研究など、修復工事と並ぶ重要な研究課題として取り組んでいる。これらの研究も着々と成果を積み重ね、将来的な保存工事の実施計画の策定に向けて準備をしている。

- ・バイヨン・インフォメーション・センターを JASA ユネスコオフィス内に開所。
- ・コーケー及びベンメリアの遺跡調査とバイヨン本尊仏の再安置事業も進めている。

## ② 塾の現状

- ・子供たちも先生たちも元気にやっている。  
先生たち自身も自らの英語力をさら上げようという向上心があり、教師用の教材（長谷川瑞穂さんから寄付）を活用してくれることと思う。  
雨で寸断されていた道も開通し、「日本語教室」も始まり、子供たちは元気よく大きな声を出して勉強しているそうです。（小出さんより）
- ・コミュニティセンターでは、遺跡修復のワークショップ、子供たちの絵画教室などが開かれている。また、訪問者との交流会や地元の青年会のイベントなどにも広く活用されている。  
「村の美術教室」は 8 回（11 月 7 日現在）開かれ、塾の子供たちも楽しく参加している。また、近いうちに、「音楽教室」も始まるそうです。（小出さんより）※三田商会様よりオルガンの寄付があった。

## 4. 2009 年度活動案及び予算案についての説明（別紙参照）

今年度は、増築された図書室の充実のため、図書購入代（10 万円）を計上。図書の選定は、できればクメール語の絵本や辞書など、現地の子供向けの本の様子やニーズを聞きながら考える。

また、日本の本であっても、図解や絵の多いものであれば、文字が読めなくても楽しめるのではないかと。日本の本は次回ツアーの時持参できる。

## 5. A Y F の今後の活動について（委任状に寄せられた意見も含む）

### ① 今後の A Y F の活動の見直し

今年度は第一期の最終年度にあたり、この会を継続するかなど見直しのときである。今ようやく軌道にのって来たところであり、また、この活動は長く続けていくところに意味があるので、もう一期継続するという事で一致。

ただし、メンバーの多くは高齢化しており、次々期を見据えた今後の活動を考えていかなければならない。

単純に若い会員をつのるということもあるが、会の活動の継続を考え、みんなで見守りを出し合っていきたい。

### ② 理事会メンバーの追加や交代があってもいいのではないかと。もっと、若い人や実質活動できる人に加わってもらいたい。

### ③ 会員相互の交流について

あまり会員の負担にならない程度に、もう少し頻りに集まれる機会をつくれればよい。

### ④ もっとカンボジアに関する理解と知識をひろげたい。

⑤ 塾以外の交流について

- ・生徒の家を訪ね、自分たちの目で実際の暮らしぶりを見ることで、今後の課題のヒントが見えてくるのではないか。
- ・招かれてもいないのに興味本位で家庭に入り込むことは遠慮したほうがよいのでは？
- ・その他、塾以外の交流の件は、上記の意見も含めて、考えなければならぬ一つの課題であるが、“子供たちへの教育支援”がAYFの活動の原点であることに、もう一度立ち返ってみる必要があるのではないか。

⑥ 子供たちへのプレゼントには、様々な面からの配慮が必要である。

今後の準備会のなかで、具体的に考えていく。

⑦ カンボジアの首都であるプノンペンも見学したい。

⑧ 会報などをこまめに出して、PRしてはどうか。HPの更新を利用できるかもしれない。

6. 第五回「やまなみ塾」訪問と遺跡見学ツアーについて

今年度は、時期をずらして5月連休明けに日程をとることとなった。2月、3月に参加できない方もいる、5月はホテルや遺跡周辺が静かであることなどが理由。さらに今回は首都プノンペンやベトナムのフエ見学（中川さんが修復に携わっている遺跡見学）をオプションでとりいれている。詳細は、フライトにより後日決定してからお知らせいたします。

9. 閉会のあいさつ（野村裕子）

今日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございました。今日話し合われたことをもとに、会員みんなで考え助け合って、AYFの活動が真にカンボジアの子供たちの教育の一助となり、カンボジアと日本の文化交流の一端となることを願って閉会の挨拶とします。

以上

2009年11月13日

（文責）事務局 山岡直子